

令和 7 年度事業計画

《 法 人 目 標 》

当法人は開設以来地域の皆様に支えられ、開設 29 年目を迎える。

令和 6 年度は、「それぞれの部署が役割を自覚し、組織として成長する」という中期目標の下「求められる施設であるために、基本を身につけチームとしてレベルアップする」という目標を掲げ、職員一人一人の介護の基本を大切に、チームとして利用者満足度を高められるよう取り組んできた。

特に人材不足の中、初めての外国人技能実習生受け入れや専門学校からの新卒者入職に伴い、全職員が改めて基本を見直し一緒に学び合えたことはチームとして成長できたことの一つであった。しかしながら、厳しい人材不足により約 19 年間運営してきた認知症対応型共同生活介護事業所（グループホーム）を休止せざるを得ない状況になったことは、法人としての幅の縮小につながる結果となった。

今後も高齢者の増大、重度化、家族介護力の低下等に伴い、私たちの果たすべき役割はますます増大することが予測される。この人材不足の状況において、地域の社会福祉法人として「地域の高齢者の生活を支え、地域を支える」という使命を果たすためには、いかにして限られた人員で利用者の満足するサービスを提供できるか、という生産性向上の視点をもったマネジメントが求められる。

令和 7 年度は、引き続き介護ロボットや ICT の活用に加えて、人材の確保・定着に向けての働きやすい職場作りに力を入れて、全職員一丸となって高齢者福祉に取り組んでいく。

中期目標：「それぞれの部署が役割を自覚し、組織として成長する」

令和 7 年度法人目標：「生産性向上の視点を持って、組織として成長する」

令和 7 年度法人目標

『生産性向上の視点を持って、組織として成長する』

具体的な重点項目は以下の通りとする。

1. 介護サービスの質の維持・向上

- ① ノーリフティングケアの推進
- ② ロボットセンサー・ICT の活用
・介護記録の電子化
- ③ 各種研修の受講や資格取得

2. 人材の定着と確保

- ① 働きやすい職場環境作り
 - ・ 整理整頓
 - ・ 心理的安全性を高める取り組み
 - ・ 中間管理職（リーダー）研修の実施
- ② やりがい作り
- ③ ホームページの充実（施設の PR）

3. 事業の継続

- ① 経営の安定・部署の目標数値の設定とそのための具体的行動
（稼働率・利用率・取れる加算の取得）
 - ・ 経費節減
 - ・ 効率的な仕事（各部署の適正人数を把握し、業務の仕分け・分担の明確化）
- ② 他法人との連携
効率化に向けた近隣法人との連携
- ③ 社会福祉施設として果たす役割
 - ・ 地域貢献活動
 - ・ 生活困窮者レスキュー事業

以下、各部署目標

《1. 特別養護老人ホーム》

【特養（従来型）】

部署目標

『業務の効率化を図り利用者の QOL の向上を目指す』

1. 介護サービスの質の維持・向上

- ① ノーリフティングケアの継続
 - ・ 車椅子上でのポジショニングの基本を学び介護技術を磨く。
 - ・ それぞれの利用者に合った機器の活用。
- ② 介護記録の電子化
 - ・ 「寿」操作を習得（3 か月）
 - 情報の共有・記録時間の効率化を図り、利用者とのかかわりの時間を増やす。

2. 人材の定着・確保

- ① 整理整頓
 - ・ 物品の保管場所を明確にし、無駄なく使用できるようになる。
- ② やりがい作り
 - ・ 日々のレクリエーションを強化しバリエーションを増やす。
 - ・ 年間の行事計画に沿って季節ごとのイベントを開催する。

3. 経営安定のために

- ① 空床 2. 0%（年間空床 219 床）以下とする
 - ・健康管理に努め入院による空床を減らす。
感染予防策の徹底。
職種間で情報を交換し異常の早期発見に努める。
医療機関への迅速で的確な情報提供。
 - ・退居～入居の空床を減らす。
入所検討委員会の充実でスムーズな入居に繋げる。
待機者状況の計画的な把握に努める。
診療情報提供書等医療情報を早めに収集し、事前準備を綿密に行う
- ② 加算の算定
 - ・各種加算を理解し取れる加算は取得する。
- ③ オムツやパットの見直し

4. ショートステイの有効活用で在宅生活を支える

- ・居宅介護支援事業所と連携し、情報収集を行い在宅生活に繋がるサービスを提供する。
- ・身体機能の維持 向上を目的とする個別機能訓練の充実。
- ・利用中の生活の活性化。
レクリエーションやアクティビティの内容の充実。
- ・利用率を上げる（一日平均 7 床以上）。

【地域密着型・特養（ユニット）】

部署目標

『ICT を活用した業務負担軽減と効率化で、利用者とのかかわりの時間を増やす』

1. 介護サービスの質の維持・向上

- ① 利用者に応じた介護機器の導入。
 - ・基本を理解し安全なケアの統一を行う。
 - ・職員全員が介護機器を安全に使えるようになる。
- ② 介護記録の電子化。
 - ・全員が「寿」操作をマスターし、ゆとりの時間が持てるようになる。

2. 人材の定着・確保

- ① 働きやすい職場環境作り。
 - ・職員全員が意見を言い合える雰囲気作り。
 - ・必要頻度に合わせた整理整頓。
月単位・年単位での使用頻度で物品の保管場所を仕分ける。
- ② やりがい作り。
 - ・年間行事予定表を作成し、季節に応じたイベントを開催する。
 - ・ゆとりの時間を活用し、利用者とのかかわりを増やす。

3. 経営安定のために

- ① 空床率 2. 0%（年間空床 146 床）以下とする。
 - ・健康管理に努め、入院による空床を減らす。
感染予防対策の徹底。
職種間で情報を交換し、異常時の早期発見に努める。
医療機関への迅速で的確な情報提供。
 - ・退居～居の空床を減らす。
入所検討委員会充実でスムーズな入所につなげる。
待機者状況の計画的な把握に努める。
- ② 加算の算定。
 - ・各種加算を理解しとれる加算は取得する。
- ③ 効率の良い勤務シフトの検討。

《2. 通所介護(デイサービス)》

部署目標

『1人1人に対応できるデイサービスになる』

具体的な取り組みとして、

1. 記録を電子化することができる

- ① 職員全員が電子機器で入力、印刷等を行うことができるようになる。
 - ・健康チェック表を電子化することができる。
- ② 連絡帳にかかる時間を少なくすることができる。
 - ・電子機器より連絡帳を印刷して各利用者に提供することができる。
- ③ ケアマネージャーへの報告書作成の時間を短縮することができる。
 - ・電子機器より月ごとの利用状況などを印刷、ケアマネージャーに提供することができる。

2. 安心して利用できる、働くことができる

- ① 安心して利用できる環境を作る。
 - ・利用者1人1人の話を聞くことができるようにする。
利用者1人に対して、1日1回以上声かけをすることができる。
 - ・いる物、いない物を選別し、快適な空間を作る。
アクティビティの道具の選別や棚を整理し、見やすい、取りやすい環境にする。
 - ・利用者様の笑顔が見れるレク、アクティビティ、リハビリ、eスポーツを実施する。
現在行っているレクリエーション、リハビリ等に加え、外部ボランティアによるクラブ活動の導入を検討・実施する。
- ② 働きやすい環境を作る。
 - ・有給休暇取得や急な休みに対応できる柔軟な職場体制作り。
 - ・相談しやすい環境作り。

3. 利用者の増加と収入の増加を目指す

- ① 利用者数の目標値を以下のとおりとする。
 - ・ 1 日平均の利用者数 27 名以上（要介護＋要支援）
 - ・ 1 年間の利用者総数 8,343 名以上（要介護＋要支援）
（年間営業日数 309 日×27 名＝8,343 名）
- ② 要介護と要支援(A 型を除く)の利用者の確保に努める。
 - ・ ケアマネージャーとの連絡を密にし、依頼時には迅速に対応する。
 - ・ 実績配布の際に、空き状況等の情報提供を行う。

《 3. 居宅介護支援事業所 》

部署目標

『事業所の認知度を高め、地域との繋がりを深める』

1. 介護サービスの質の維持・向上についての取り組み
 - ・ ICT を活用した情報収集と情報共有。
 - ・ 研修による知識の向上。
 - ・ 他事業所とのシステム連携や情報共有を行い、業務の効率化を図る。
2. 人材の定着と確保についての取り組み
 - ・ 職員間の連携を密にし、ムリをなくす。
 - ・ 整理整頓によるムダ、ムラの解消。
3. 事業の継続についての取り組み
 - ・ 要介護 35 件、要支援 8 件以上の受け持ち件数を確保
 - ・ 各種加算の取得。
 - ・ 地域の民生委員や診療所との繋がりを密にし、利用者増に繋げる。

《 4. 地域連携室 》

部署目標

『相談しやすい対応を心掛ける』 ～能率・効率・スピードを上げ、合理化する～

限られた時間の中でいかに効率良く、パフォーマンスを上げるかが課題。その為には、心理的安全性の基に相談しやすい雰囲気と対応で、ニーズを的確に把握し ICT を活用し効率良く仕事を進める。

1. 生計困難者レスキュー事業：依頼時
 - ・ 地域の社会福祉法人として、地域貢献をすべく生計困難者へ迅速な対応を行う。
その際、クライアントが主体性を持って、地域で自立した生活が送れるよう、本人を取り囲む社会資源と連携し経済的援助を行う。
2. 地域の方々の関りを持つ：新米の収穫時期、任築への参加他
 - ・ 2 年間行ってきた秋のイベントの範囲を広げ、地域の方々（老若男女）と施設利用者、家族との関りを増やす。新米の収穫時期に郷土料理を地域の方々と作り、振る舞い、のんびりとゆっくりした時間を過ごしていただく。
 - ・ 地域貢献の 1 つとして、地域の任築に参加し、地域の方々との関りを持つ。

3. 法人の取り組みをホームページに載せる：各部署の情報を収集し毎月更新する

- ・各部署の成功体験を載せ施設内でどのような生活を利用者が送っているのかを発信する。また、職員の紹介を含め、職員の取り組みややりがいを発信する。
- ・ホームページを新しく作り直す。

4. ICT の活用：情報の共有

- ・介護記録をはじめ ICT の情報を得た時には、連絡会議やリーダー会議を活用し、多職種、他部署との情報を共有し、効率の良い仕事ができるようにする。

《5. 栄養課》

部署目標

『チームで業務の効率化を目指す。

利用者と関わる時間を大切にし、食べる楽しみの充実を図る。』

1. 介護サービスの質の維持・向上

- ・介護記録システムを学び、習得することで、他部署と利用者の情報の共有ができるようにし、栄養管理業務の効率化を図る。
- ・高齢者の栄養管理に関する研修会を受講し、栄養ケアを進めるために必要な知識や技術を習得する（2回／年）。

2. 人材の定着と確保

① 働きやすい職場環境

- ・委託スタッフと協力し整理整頓のスケジュールを作り、厨房内の環境を整え安全に作業ができるようにする。
- ・委託スタッフと献立内容等の打ち合わせを月 1 回献立提出時に行い、現場の意見を取り入れる。
- ・リーダー研修に参加し、リーダーに必要な役割やスキルを学ぶ。

② やりがい作り

- ・地域の郷土料理を掘り起こし、季節ごとに料理教室を開催して専門的知識を得る。（3回／年）
- ・習得した料理を提供し、利用者に喜んでもらえる新しいメニューを増やす。
- ・料理教室を通して、利用者や職員、地域の方との交流を深める機会をつくる。

③ ホームページの充実

- ・行事食や郷土料理、日ごろの食事を「清泉のおいしい食事」として、広報誌や HP で紹介する。

3. 事業の継続

- ・栄養マネジメント強化加算の算定継続。

経口維持加算算定(1) 400 単位/月の対象者の把握を各部署スタッフと密に行い、対象者全員の加算を取得する。